

【スーパーグローバル大学創成支援(SGU)タイプB採択】  
国際性豊かな学術交流の母港  
「グローバル・アカデミック・ポート」の構築  
進捗状況報告



学長定例記者会見資料





# スーパーグローバル大学創成支援(SGU)とは

- 文部科学省平成26年度新規事業(予算額77億円)

## 【背景及び目的】

経済社会のグローバル化が進む中、我が国が今後も世界に伍して発展していくには、大学の国際競争力向上と、多様な場でグローバルに活躍できる人材の育成が不可欠。そのため、徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、我が国高等教育の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図る。

## 【事業概要】

世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための新たな取組や、人事・教務システムの改革、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学を重点支援。

### ○トップ型(採択校13件):4.2億円(標準額)

世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援

<SGU公式ロゴ>

### ○グローバル化牽引型(採択校24件):1.72億円(標準額)

これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学を支援



TOP GLOBAL  
UNIVERSITY  
JAPAN



## 本構想の目的と内容

質を重視し、世界から信頼される日本の“**Top Global University**”へ

### 「グローバル・アカデミック・ポート」の構築

日本と海外の学生・教職員が頻繁に行き来し協働する「国際性豊かな学术交流の母港」を整え、  
本学の理念「“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成」を実現する。

スクールモットー: “Mastery for Service”(奉仕のための練達)

### ◇5つのキーワード



教育OSの刷新「ダブルチャレンジ制度」



協定に基づく海外派遣学生数日本一



国連・国際機関等へのゲートウェイ創設



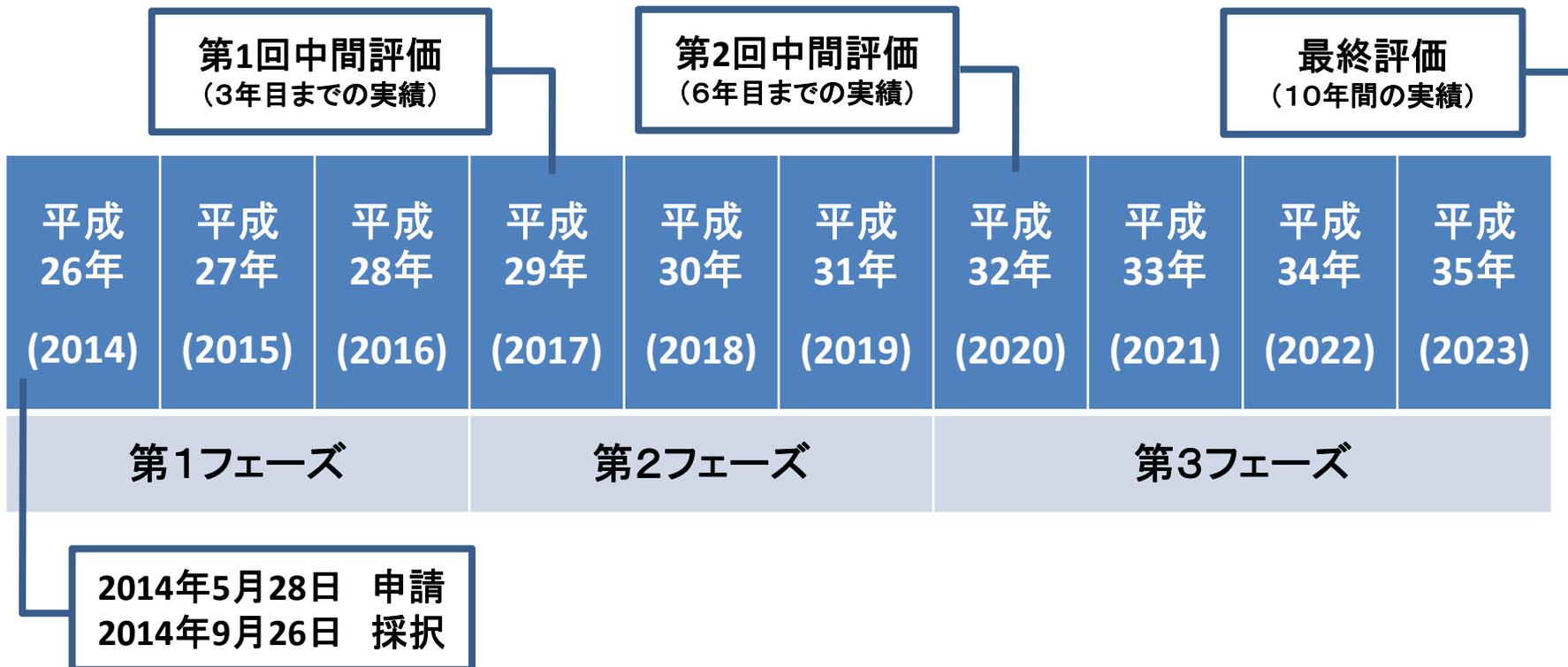
国際通用性のある質保証システム構築



ガバナンス改革による総合的マネジメント実現



# SGU事業 10年間のスケジュール



(注1) 中間評価(S、A、B、C、D)の結果がSの場合は補助金の増額、B以下の場合は補助金の減額が予定されている。

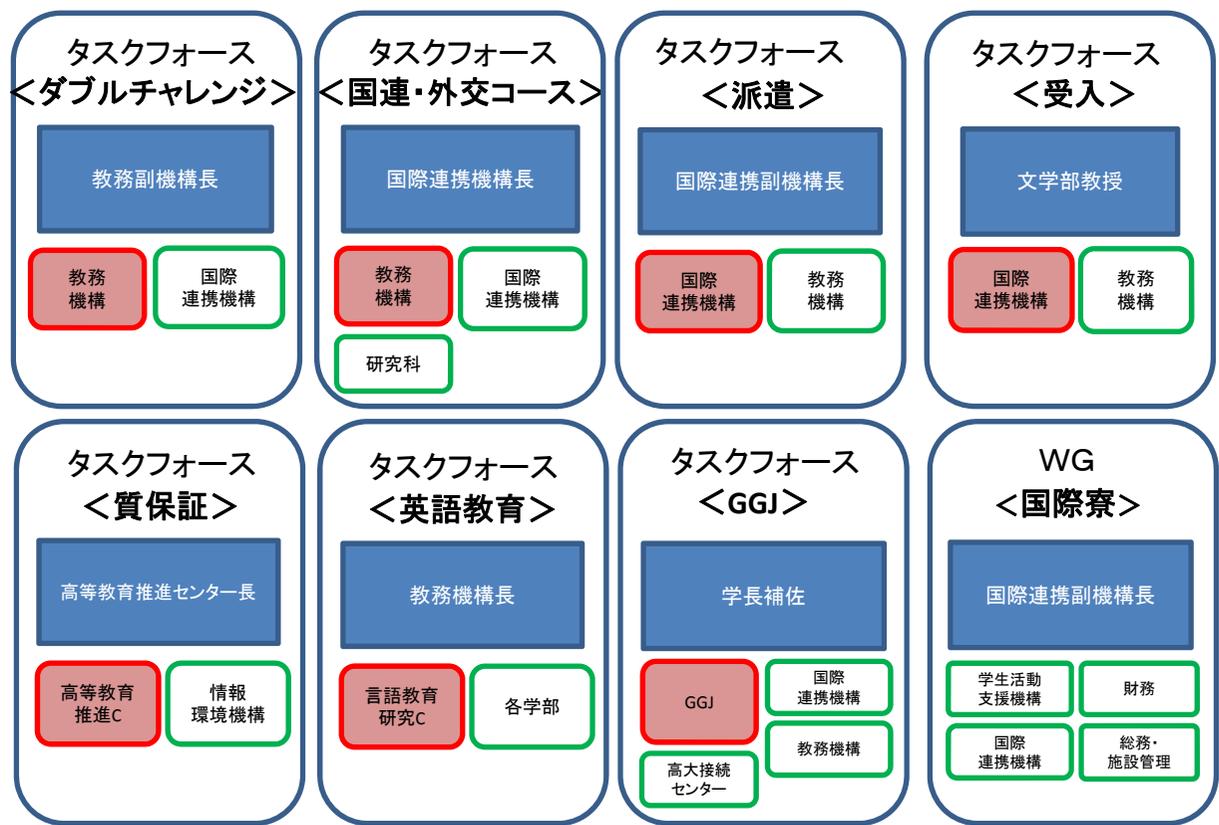
(注2) 中間評価または最終評価が「D(中止することが必要)」と評価された大学は平成28年度以降、新たに公募するプログラムに申請できない期間を設けられる。



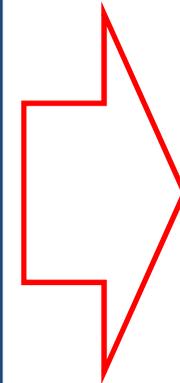
# グローバル化推進本部の設置 (2014年11月)

## グローバル化推進本部

本部長=学長



グローバル化推進室(SGU全体事務局) (2015年4月設置)



実行に向けた学内諸手続き







# 全学生が挑む「ダブルチャレンジ制度」



## 教育OSの刷新 「ダブルチャレンジ制度」

異なるものとの出会いの場「アウェイチャレンジ」で、  
全学生が「主体性」「タフネス」「多様性への理解」を深める

アウェイチャレンジ

国際ナショナルプログラム 

「母国を出て、世界を知る」

ホーム  
チャレンジ

(各学部・専攻での学び)

アウェイチャレンジ

副専攻プログラム 

「学部を出て、他分野を学ぶ」

<ポイント>

- 現行の副専攻制を体系化・構造化
- 複眼的な視野を身につける

アウェイチャレンジ

ハンズオン・ラーニング・  
プログラム(実践型学習) 

「学校を出て、実社会を経験する」

<ポイント>

- 実践と事前・事後教育の結合
- サービスラーニング、フィールドワーク、PBL、  
インターンシップ等を国内外で展開



# ＜ダブルチャレンジ制度＞定義・目標

創設予定の「ダブルチャレンジ制度」におけるアウェイでのチャレンジは、①インターナショナルプログラム、②ハンズオン・ラーニング・プログラム、③副専攻プログラムの3つからなり、学生はいずれかのプログラムに取り組むものとしている。これらアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数を本構想の独自指標の一つとする。

(構想調書P.57-59、共通観点3「大学独自の成果指標と達成目標」)

## 教育OSの刷新「ダブルチャレンジ制度」

当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数	平成25	平成28	平成31	平成35
	1,256	1,800	2,600	5,700

アウェイチャレンジには、「インターナショナルプログラム」「ハンズオン・ラーニング・プログラム(実践型学習プログラム)」「副専攻プログラム」の3プログラムを用意する。

(構想調書P.7「大学独自の成果指標と達成目」、概念図より抜粋)

	平成25	第1フェーズ			第2フェーズ			第3フェーズ			
		平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	平成32	平成33	平成34	平成35
ダブルチャレンジ制度 (人)	1,256			1,800			2,600			5,700	

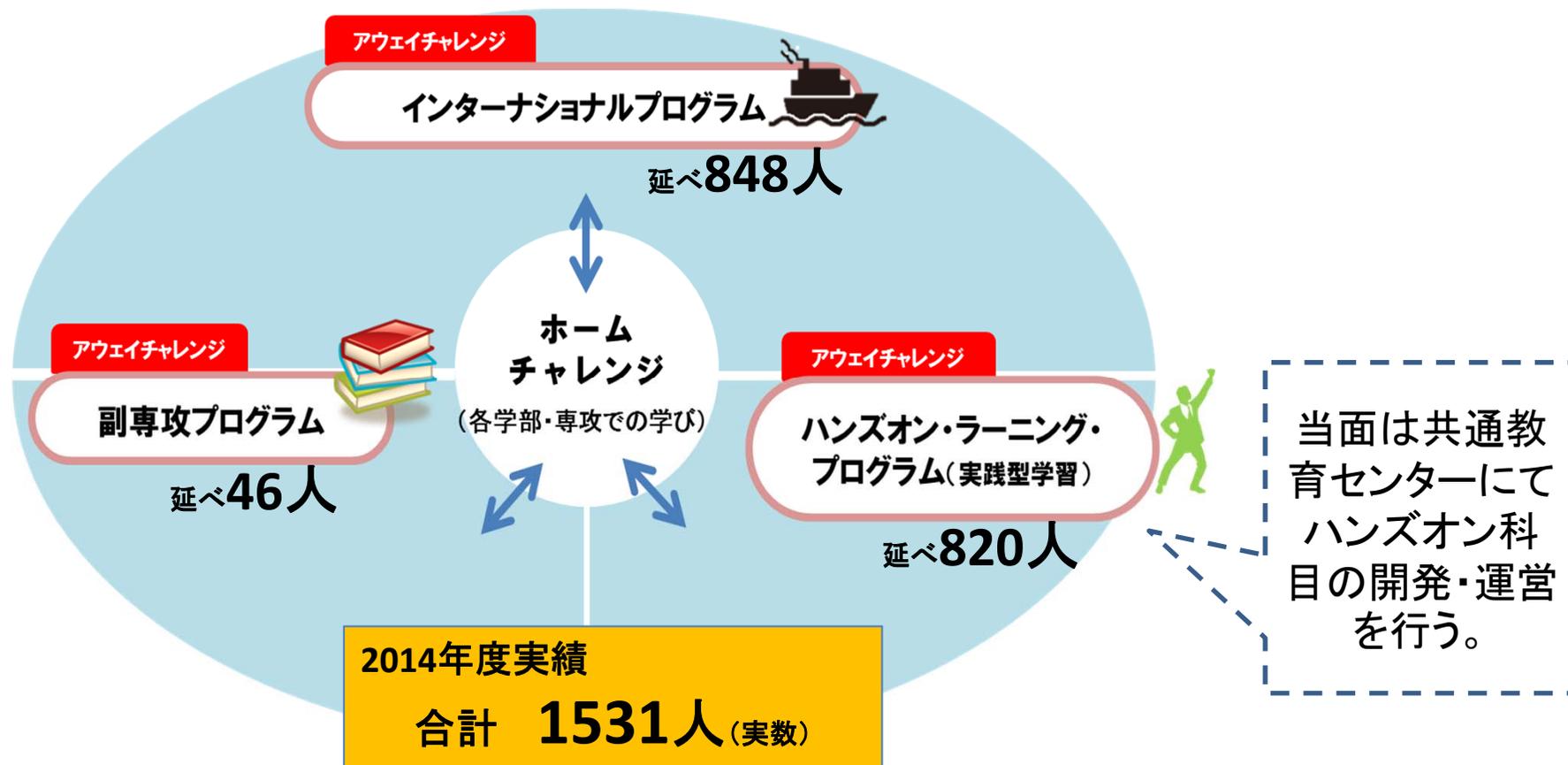
(H31入学生より全学生に課す)

(構想調書P.4「工程表」より抜粋)



## <ダブルチャレンジ制度>2014年度実績

学生がホームとアウェイの2つのチャレンジに取り組む「ダブルチャレンジ制度」において、アウェイチャレンジ各プログラムの単位取得延べ人数は、国際ナショナルプログラム848人、ハンズオン・ラーニング・プログラム820人、副専攻プログラム46人で、単位取得者の実数は1531人であった。





# 国際プログラムの飛躍的拡充

## 質を重視した国際化

### 派遣



協定に基づく  
海外派遣学生数日本一

学生の2人に1人が協定校に留学

#### 協定校への派遣

現在約900人 → 2500人/年

(全国4位2012年、全国5位2013年JASSO調べ)

アジア初の国連ユースボランティア、JICA、  
国際赤十字への派遣等、  
国際機関との協定による派遣拡大



### Global Academic Port

#### 協定校との交流拡大 のための環境整備

- クォーター制の拡大
- 英語による授業の拡大
- 全科目ナンバリング
- シラバス英語化
- 国際流動性を高める人事制度
- 留学事前・事後教育の体系的整備

### 受入



#### 留学生受入

現在約900人 → 1500人/年

協定校からの受け入れを拡大

- 充実した教学・生活・経済支援体制、  
日本語教育のさらなる拡充

全国の日本語学校が選ぶ  
「勤めたい進学先」西日本文系トップ  
(H26年日本語教育振興協会)



### 海外拠点

既存: トロント、  
中国北部(吉林大)、  
新設: 中国南部(蘇州)、  
ASEAN

### 融合

- 全交換留学生に日本語パートナーを配置
- 留学生と日本人学生の融合型プログラムの拡充
- 混住型国際教育寮3寮の新設



# ＜派遣＞協定校への派遣学生数 目標2500人/年

## 協定校への派遣 (2023年目標値)



**合計2,500**  
(895)

(カッコ)内の数字は2013年度実績

**CIEC**  
**1750** (793)

**学部・研究科等**  
**750** (102)

外国語  
短期  
**960** (403)

交換  
JD/DD  
**290**(144)

外国語  
中期  
**400** (217)

国際学生  
セミナー  
**100** (29)

### 【学部・研究科等のプログラム】

2014年現在：  
人間福祉学部、国際学部、言語教育研究センターで実施。



# 各学部のプログラム開発状況

2015年12月5日現在

学部	協定大学名	期間	内容
神学部	日本キリスト教協議会宗教研究所（主にドイツ）	1 Semester	【融合・受入】 講義、フィールドワーク
文学部	レーゲンスブルク大学（ドイツ）	約4ヵ月半	【派遣】 ドイツ語中期留学
社会学部	国立高雄第一科技大学（台湾）	5～7日	【融合・派遣／受入】 ディスカッション、フィールドワーク
法学部	中国人民大学（中国）	1 Semester	【派遣／受入】 交換留学
商学部	西オーストラリア大学（オーストラリア）	2週間～ 1ヵ月程度	【派遣】 ビジネス英語研修
	カンガラカレッジ（カナダ）※協定協議中		
	サンディエゴ州立大学（アメリカ）※協定協議中		
	ピサヤ大学（フィリピン）※協定協議中		
理工学部	ウダヤナ大学（インドネシア）※協定協議中	7日間	【派遣】 フィールドワーク
	ディポネゴロ大学（インドネシア）	14日間	
	吉林大学（中国）	7日間	
	マルケポリテック大学（イタリア）	1～6ヵ月	【受入】 研究室でのラボワーク
総合政策学部	ソノマ州立大学（アメリカ）	約1ヵ月	【派遣】 講義、フィールドワーク
人間福祉学部	ハワイ大学（アメリカ）※協定協議中	1週間程度	【派遣】 講義、フィールドワーク
	アデルファイ大学（アメリカ）※協定協議中	2週間程度	【派遣】 フィールドワーク
教育学部	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（アメリカ）	2週間程度	【派遣】 講義、フィールドワーク
経済学研究科	エアランゲン・ニュルンベルク大学（ドイツ）	1～2年程度	【派遣／受入】 交換型ダブルディグリー(M)
理工学研究科	ベトナム国家大学ハノイ校工業技術大学（ベトナム）※協定協議中	2年	【受入】 英語学位コースへの推薦入学(M)
経営戦略研究科	リール第一大学（フランス）	1～2年程度	【派遣／受入】 交換型ダブルディグリー(M)

※2014年度以降の新規開発分



# <留学生受入の目標>1500人

## 留学生の受入 (2023年目標値)



(カッコ)内の数字は2013年度実績

○ SGU採択校のなかでも  
比率では最も低い数値  
(評価結果の「留意事項」に指摘あり)

**合計1,500**  
(913)

**正規**  
650(609)

**交換**  
275(208)

**短期**  
575(96)

○ 短期は可能な限り協定校と  
開発(協定校からの受入目標  
= 交換+短期で820要)

**全学**  
340 (96)

**学部・研究科**  
235

日本語  
教育150

日本研究  
150

学生交流  
セミナー40



# 混住型国際教育寮の建設・拡充①

## ◆「清風寮」 2015年4月供用開始

留学生1名と日本人学生4名の計5名が1組になり、共同生活を通じて異文化を体験し、日本人学生と留学生が協働する国際教育のためのルームシェアタイプ。

定員：60名（女子学生専用）（内訳：留学生11名、日本人学生39人）

寮費：月32,000円（光熱水費別）、入寮費：60,000円

食事：なし（共同の自炊設備あり）



名称	内容	備考
清風寮	形態：大学所有 住所：西宮市上ヶ原 部屋数：60室（交換学生分12室） 寮費：32,000円／月、入寮費：60,000円	2015年4月～

留学生 内訳	
国名	人数
台湾	3
フィリピン	1
中国	3
オーストラリア	1
韓国	1
シンガポール	1
日本（カナダからの帰国生）	1



## 混住型国際教育寮の建設・拡充②

### ◆「国際学生レジデンスⅣ」(旧清風寮)

2015年度8月1日供用開始

短期留学生受入を主たる目的とした宿泊施設だが、正規留学生、交換学生の供用も含み、長期・短期、留学生・日本人、男女それぞれが混住する形態)

部屋数:全27室(ツイン25室、シングル2室)

交換留学生はシングルユース、短期留学生はツインユースを想定

名称	内容	備考
国際学生レジデンスⅠ	形態:大学所有 住所:宝塚市御殿山 部屋数:30室	2016年3月 閉寮予定
国際学生レジデンスⅡ	形態:借り上げ(一棟) 住所:宝塚市川面 部屋数:33室	—
国際学生レジデンスⅢ	形態:借り上げ(部屋借り) 住所:西宮市平木町 部屋数:11室	—
国際学生レジデンスⅣ	形態:大学所有 住所:西宮上ヶ原 部屋数:27室(ツイン25室、シングル2室) 交換:35,000円/月、短期:2,600円/日	旧清風寮 2015年8月～



現行(～2016春)	改正(2016秋～)
<p><b>日本・東アジア研究プログラム</b> Japan and East Asia Studies Program (JEASP)</p>	<p><b>現代日本プログラム</b> Contemporary Japan Program (CJP)</p>
<p>• <b>日本語学習コース</b> Japanese Language Courses (JLC)</p> <p>• <b>総合日本学習コース</b> Japanese Studies Courses (JSC)</p> <p>• <b>中国・韓国学習コース</b> China and Korea Studies Courses (CKSC)</p> <p style="text-align: center;">統合</p>	<p>• <b>日本語学習科目群</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本語 開講</span></p> <p>Japanese Language Courses (JLC)</p> <p>• <b>総合日本学習科目群</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">英語 開講</span></p> <p>Japanese Studies Courses (JSC)</p>



## 二つの専攻を設置

日本語を積極的に学びたい学生は「日本語専攻」、英語で現代日本について学びたい学生は「現代日本専攻」を選択できる。  
 これにより、英語科目のみで交換留学を終了することも可能。

### 日本語専攻

#### Japanese Language Track

日本語学習科目群 **必修**

総合日本学習科目群 **選択**

### 現代日本専攻

#### Modern Japanese Track

総合日本学習科目群 **必修**

日本語学習科目群 **選択**

人数

比率(予測)

7

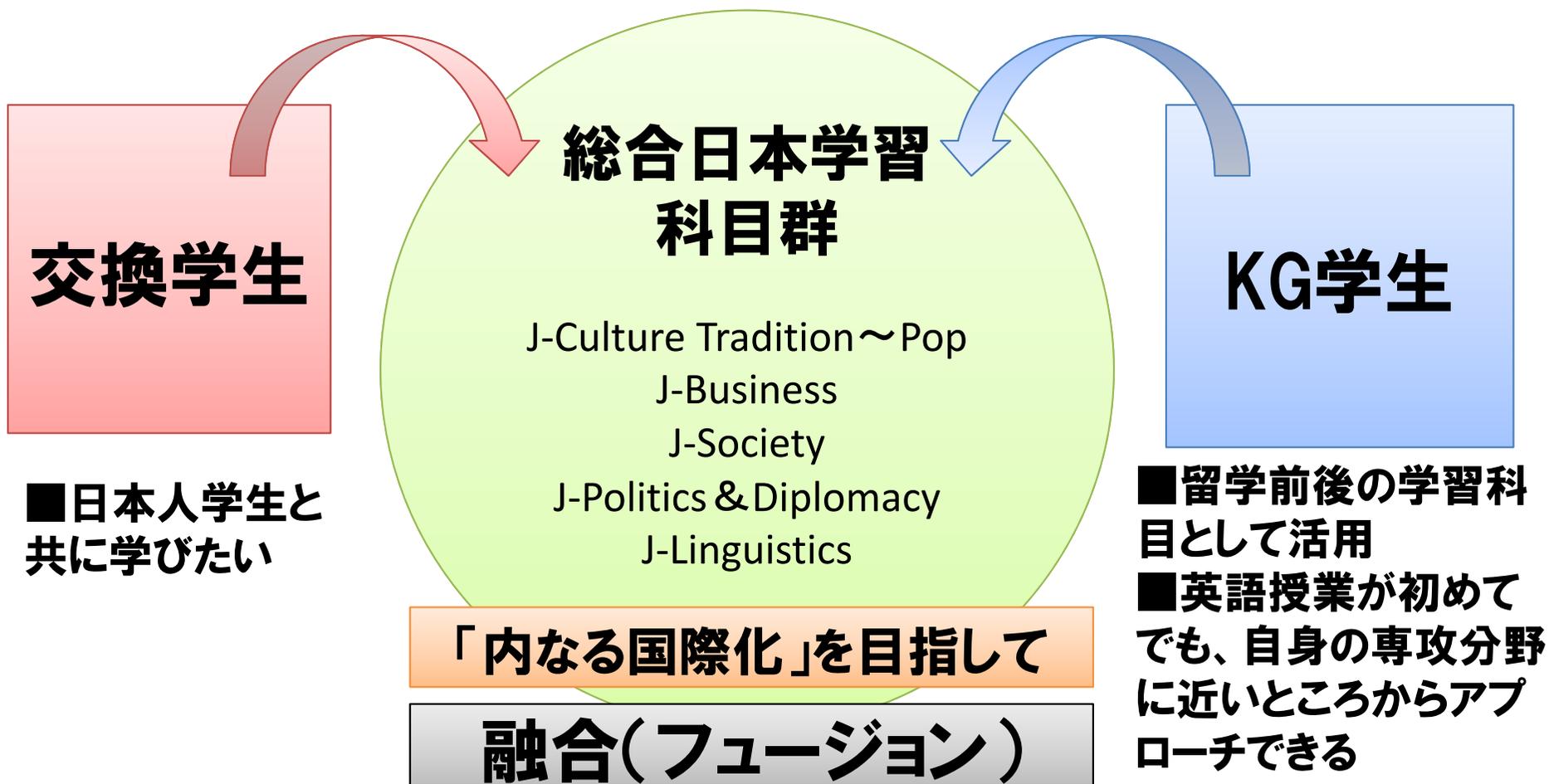
:

3



## 融合科目の拡充 総合日本学習科目群(英語)

交換学生だけでなくKG学生も一定の英語要件をクリアすれば履修できるが、認知度が低い。カリキュラムを体系化することで、学内の国際交流科目として発展が期待できる。





## 海外入試制度

### ◆海外での入試の実施

2015年度入試(2014年度実施)では、本学初の海外での外国人留学生入試をソウル(韓国)で実施。**4学部(経済・総合政策・人間福祉・国際学部)**が実施した。2016年度入試では、日本留学入試の結果等を用いた書類選考入試(2016年度から理工学部が実施)、もしくは書類選考にスカ이프面接を加えた入試(国際学部が既に実施)の導入についても学部を検討を求めていく。

### ◆海外指定校推薦入試制度の拡大

#### ➤ 学部海外推薦入試制度の拡大

6学部(神・文・経済・理工・総合政策・国際学部)が実施。

指定高校は、合計13校。

韓国	台湾	タイ	中国	インドネシア	専門学校
5校	2校	2校	1校	1校	2校

#### ➤ 大学院海外推薦入試制度の拡大

5研究科(経済学・理工学・総合政策・言語コミュニケーション文化・経営戦略研究科)が実施。指定大学は2013年度の6大学から2014年度には41大学に増加。



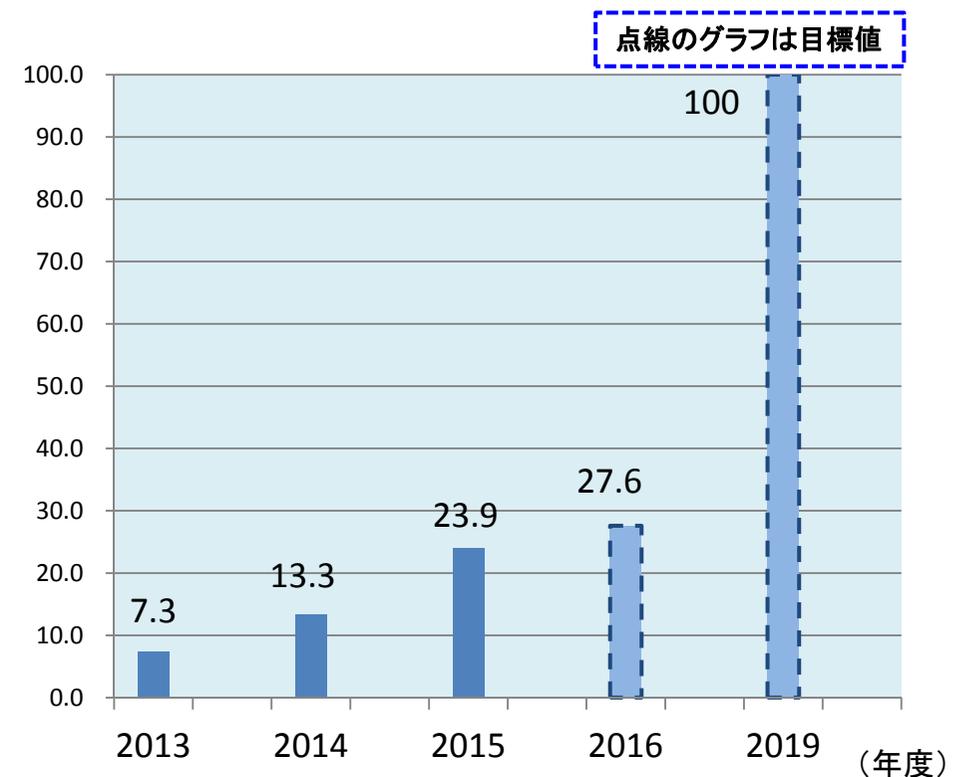
## ナンバリングの拡充(全科目)

◆2019年度までに、全学部のナンバリングを完了させる。

年度	導入完了
~2014	法学部、経済学部 国際学部
2015	神学部、商学部 人間福祉学部
2016 (予定)	全ての学部で導入

※大学院は現在調整中。

ナンバリングを行っている授業科目数(%)





# 海外拠点の拡大

◆中国北部/吉林大学、カナダ/トロント大学に続く、新たな拠点を中国南部/蘇州大学およびASEAN(インドネシア/ジャカルタ)に設置する。

中国(北部)/吉林

関西学院大学吉林オフィス  
(吉林省長春市・吉林大校内)  
(2009年設置)



カナダ/トロント

関西学院大学トロントオフィス  
(オンタリオ州トロント市・  
トロント/ビクトリア大校内)  
(2009年設置)



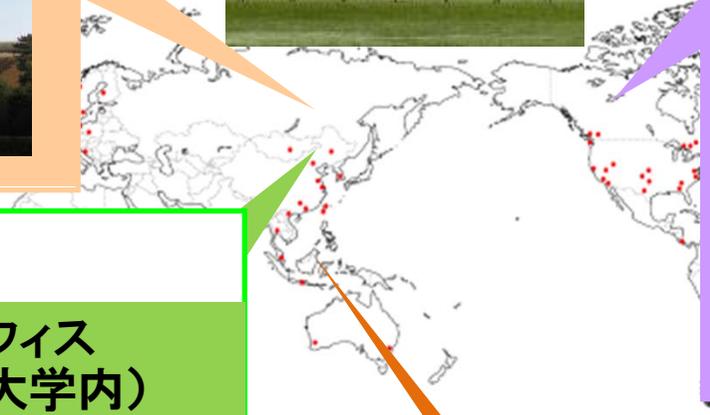
中国(南部)/蘇州

関西学院大学蘇州オフィス  
(江蘇省蘇州市・蘇州大校内)  
(2015年設置)



ASEAN/ジャカルタ等(予定)

2017年度～(予定)





## 英語教育の飛躍的拡充①

---

### ① プレースメントテスト、アチーブメントテストの全学実施

1年生春学期からの習熟度別クラスを徹底するため、入学前のオンラインによるプレースメントテストを導入するとともに、現在実施している全学TOEICをアチーブメントテストとして位置付け、全学で同一の時期に実施する。

### ② 習熟度別クラスの徹底

上位(センター)、中間(学部)、下位(センター)と教育のアプローチの異なる層をまとめることにより、英語力に合わせたきめ細やかなカリキュラム設計を行い、教育効果を高める。

### ③ TOEFL-ITP試験の受験機会の設定

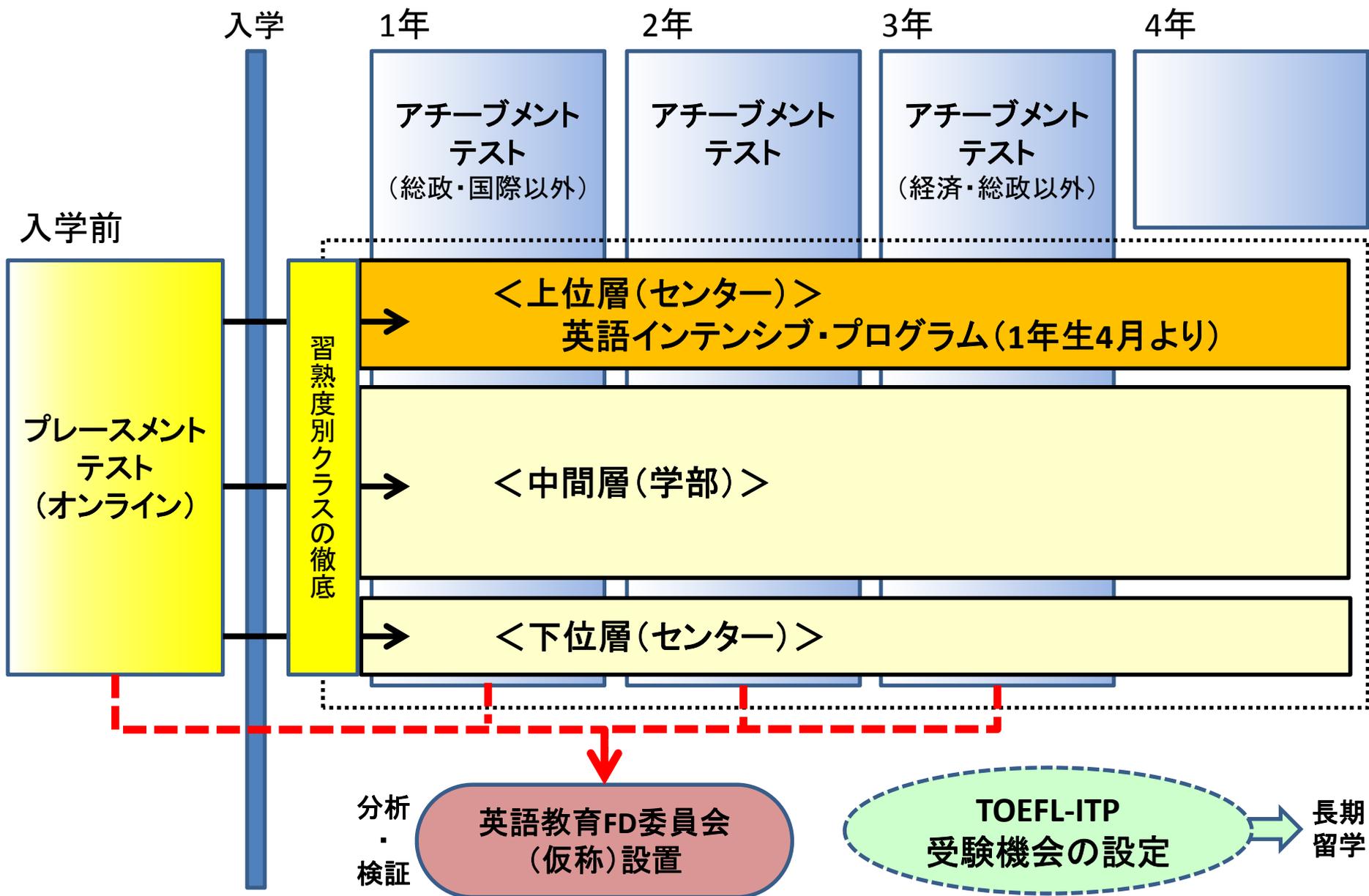
学生の申し込みにおいて必要となるTOEFL-ITPの受験機会を希望者対象として設定する。

### ④ 全学的な英語教育のためのFD実施

「英語教育FD委員会(仮)」を設置し、各学部等および言語教育研究センターにおける英語教育の取組や課題を共有する。また、プレースメントテストおよびアチーブメントテストのスコアデータを全学で共有し、分析・検証を行う。



# 英語教育の飛躍的拡充②





# 国連・国際機関等の職員を輩出する包括プログラム



## 国連・国際機関等への ゲートウェイ創設

国連・国際機関、国際NGO職員、外交官など  
「世界の公共分野で活躍するグローバルリーダー」を育成する



GGJ=経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成事業(2012年度)、SGH=スーパーグローバルハイスクール(2014年度、2015年度)



## 国連・国際機関等の職員を輩出する包括プログラム

2015年9月 SGU招聘客員教員採用

2015年10月24日 関学国際機関人事センター開設

2015年10月24日 国連グローバル・コンパクト支援関学センター開設

2016年度 国連・外交コース(大学院)入試実施

2017年4月 国連・外交コース(大学院)創設

2017年4月 国連・外交プログラム(学部)創設

### 🔑 国連・国際機関等へのゲートウェイ創設

当該年度における国連ユースボランティア、  
国連セミナー、国際社会貢献活動、  
国連・外交コースインターンシップ等参加学生数

平成25	平成28	平成31	平成35
78	123	158	190

国連・外交コースインターンシップとは、大学院共同プログラムである「国連・外交コース」にて  
予定されている国連・国際機関等へのインターンシップのこと。

当該年度における  
国連・国際機関等の職員輩出数

平成25	平成28	平成31	平成35
—	5	8	15

「国際機関等」の中には、外務省、国際協力機構(JICA)、国際交流基金、国際協力銀行(JBIC)、  
JPO、国際NGO・NPOなどが含まれる。



## 推進にあたる教員

※2015年10月までに決定分



**明石康 元国連事務次長**

2016年4月1日 SGU招聘客員教授就任

**村田俊一 前国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 事務局次長**

2016年4月1日 総合政策学部教授就任 (現:同学部客員教授)



**久木田純 前国連児童基金 (UNICEF) カザフスタン事務所代表**

2015年9月1日 SGU招聘客員教授就任

**神余隆博 副学長  
元ドイツ大使・国連日本政府代表部大使**

「『国連・外交タスクフォース』リーダー」として構想実現を牽引

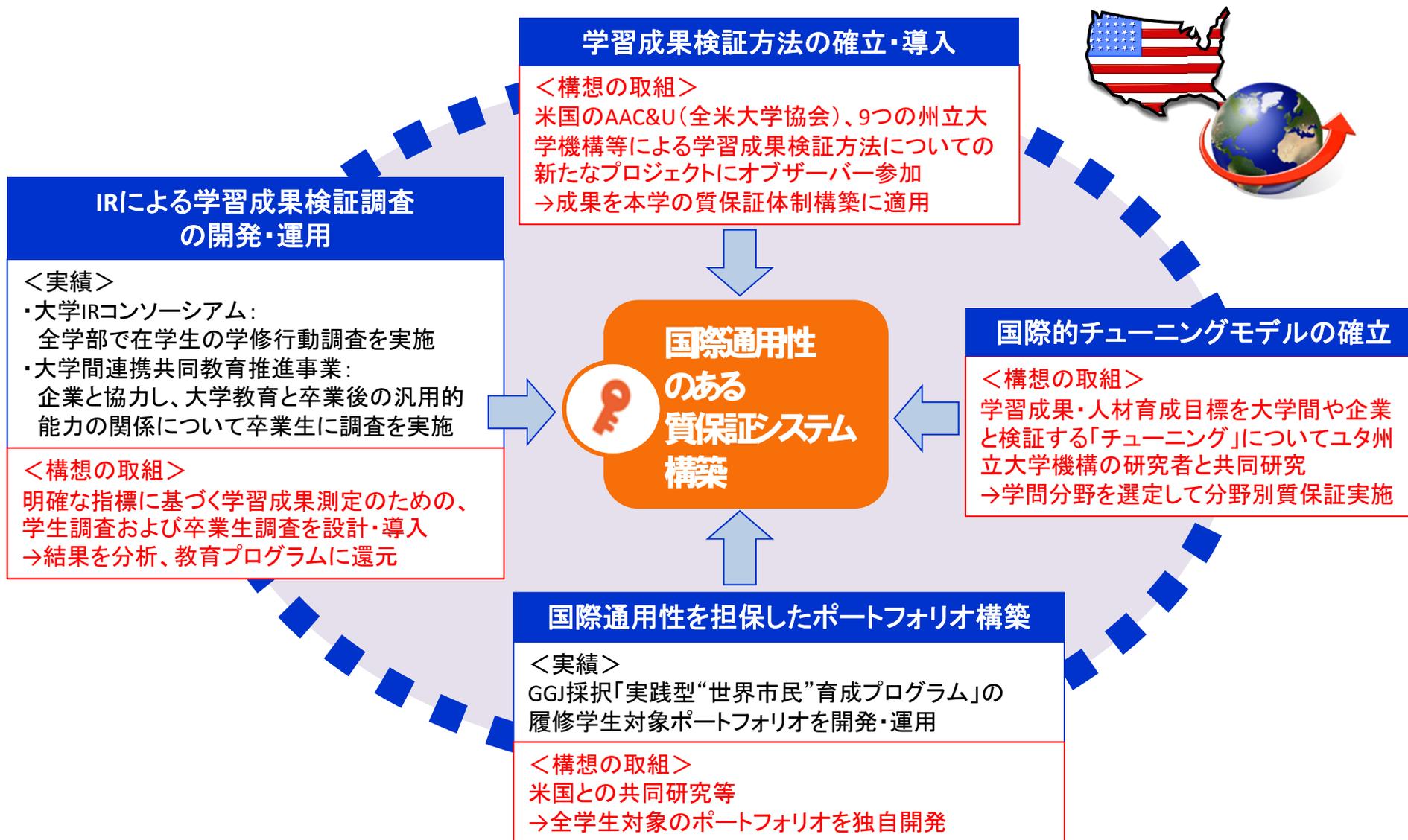


### その他 国連関係教員陣(2015年度)

- 西野桂子 総合政策学部教授(元国連児童基金職員)
- 小西尚実 総合政策学部准教授(元国際労働機関本部職員、元アジア開発銀行総裁補佐官)
- 丹羽敏之 総合政策学部客員教授(元国連事務次長)
- 和気邦夫 総合政策学部客員教授(元国連人口基金事務局次長)
- 大崎麻子 総合政策学部客員教授(元国連開発計画本部)ほか



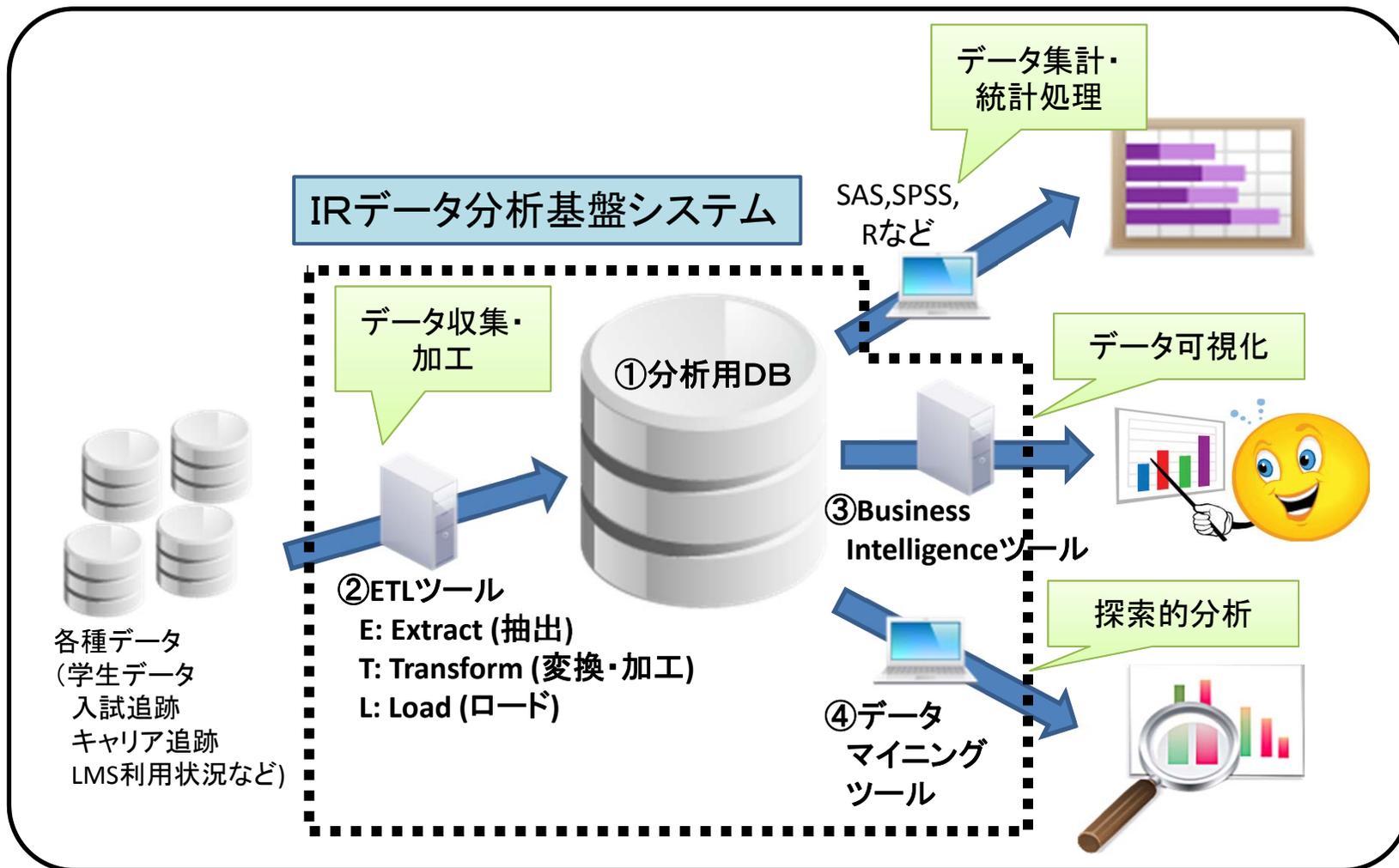
# 国際通用性のある質保証システムを構築





# IR機能の充実と推進

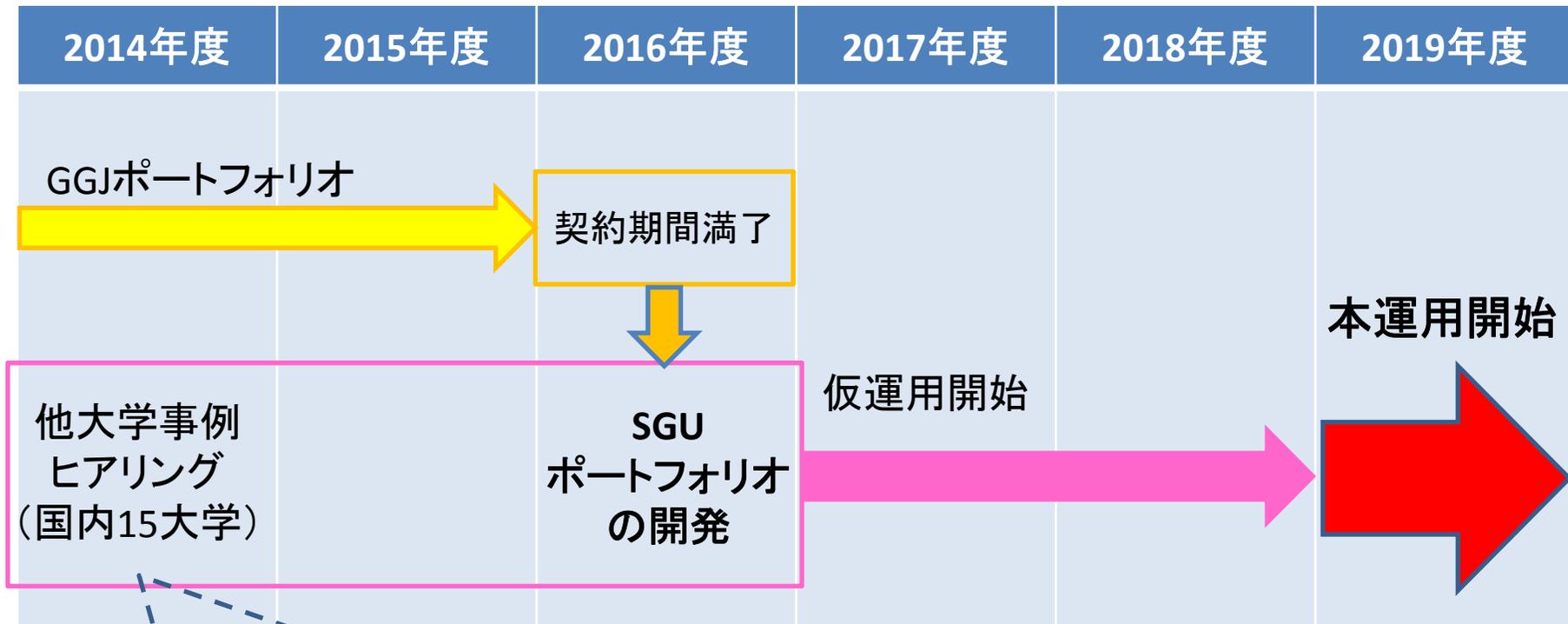
学内に散在している、学生に関わる各種データやアンケート調査等の結果を集約するためのIRデータ分析基盤システムを構築した。最終的な運用体制が確立されるまでの暫定的な「関西学院大学IRデータに係る管理・運用に関するガイドライン」を定めて学長の管理下で仮運用を開始する。





# ポートフォリオの開発

2019年度のダブルチャレンジ制度開始に向け、2017年度より試験運用を開始し、利用者からの要望反映や、ダブルチャレンジ制度で必要な項目を追加するなどした上で、2019年度に本運用を開始させる。



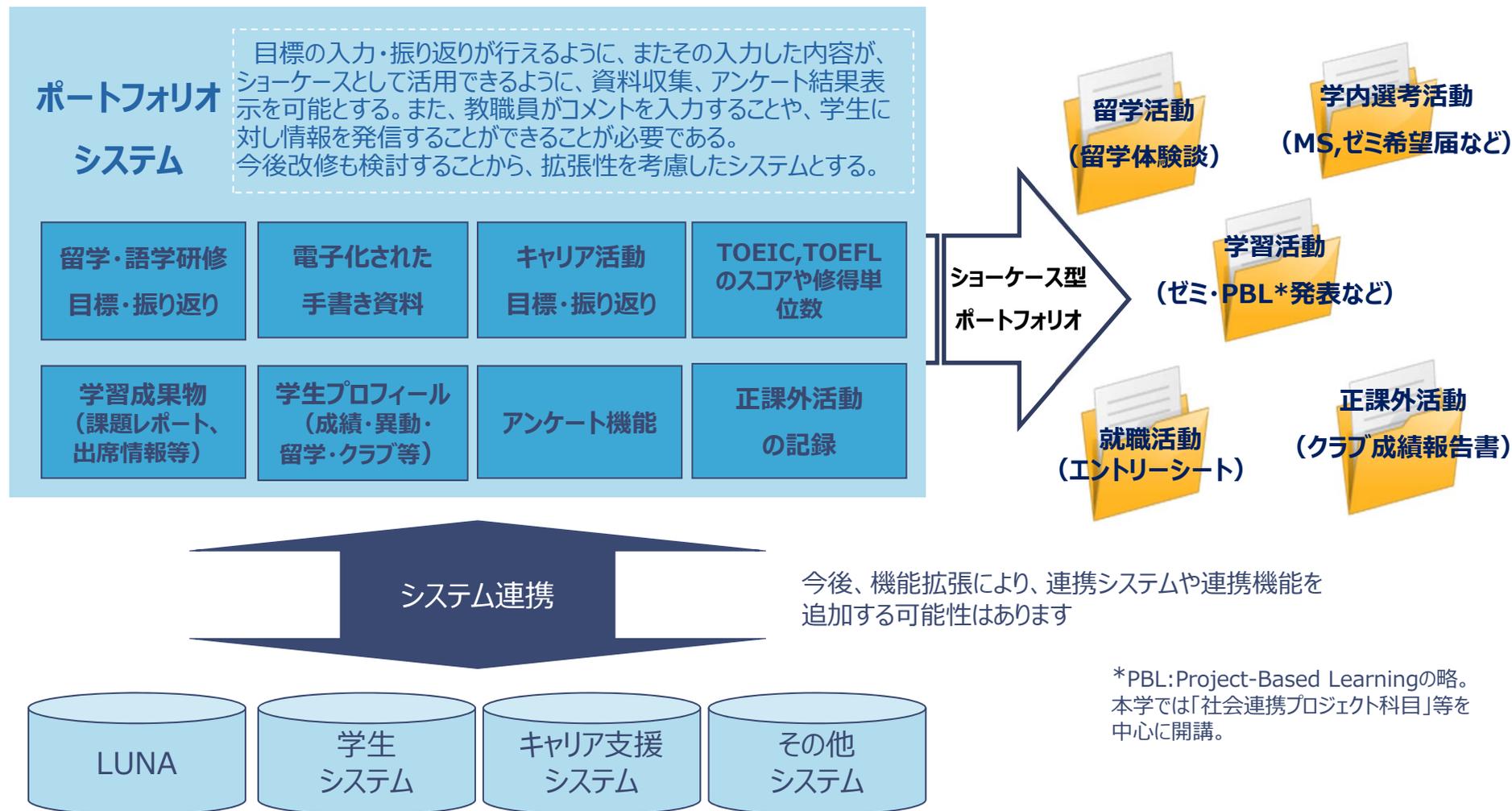
畿央大学、酪農学園大学、大阪府立大学、関学（GGJ）、九州工業大学、長崎大学、東京理科大学、明治大学、法政大学、立教大学、獨協大学、日本大学、玉川大学、日本女子大学、芝浦工業大学



# ポートフォリオシステム利用イメージ

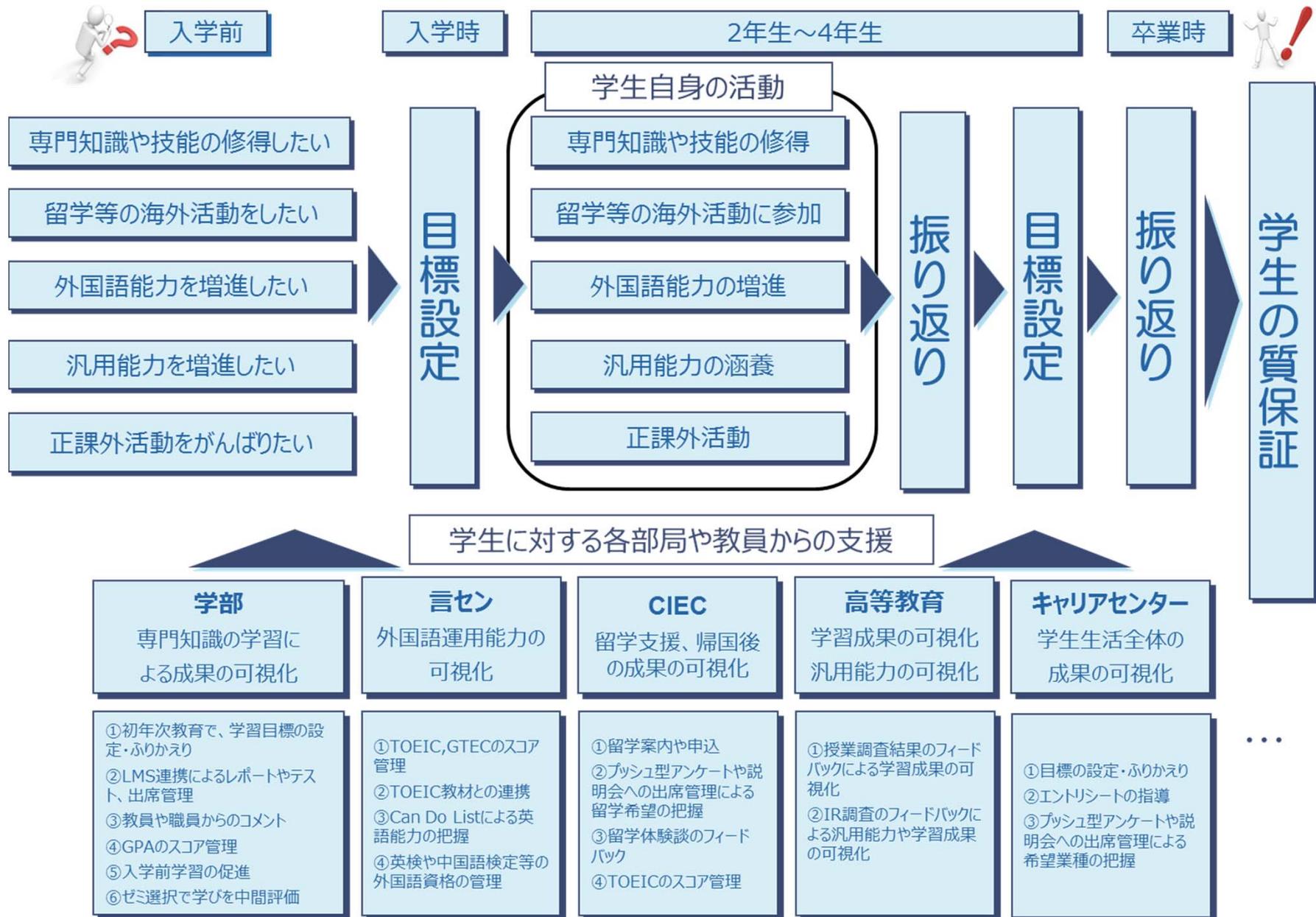
●ポートフォリオシステムのイメージ図は、以下の通り。ポートフォリオと他システムを連携し、記載の通りのサービスを提供する。

## 学生の質保証





# 学生の質保証とポートフォリオ機能との関係

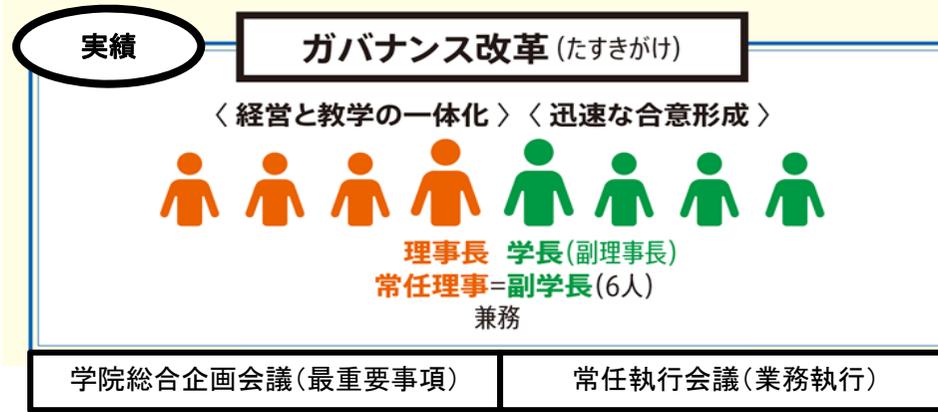




# ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現

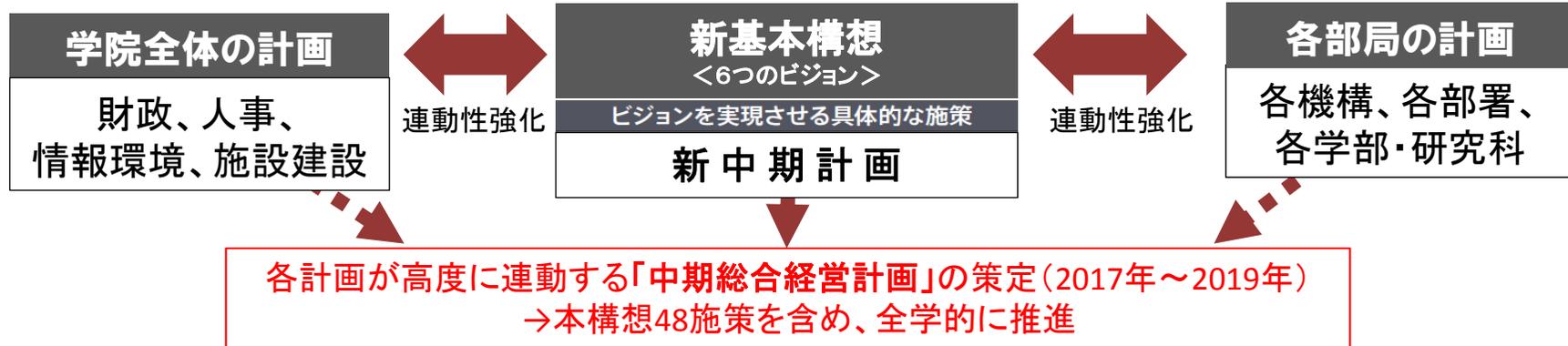
ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現

総合私立大学の先駆となる「関学モデル」を提示：  
学長がマネジメントにおいて総合的なリーダーシップを発揮できる体制を確立



学長は教学とともに、副理事長として財政、人事、施設、情報の諸計画にも関わる

## 総合的マネジメントの実現(経営の質の向上)



**総合企画部の新設**  
理事長・学長のリーダーシップを支え、総合的マネジメントを実現するために、諸計画の連携推進、PDCAサイクルの強化、データ活用等について高度な専門知識・技能を有する事務組織を新設し、真の教職協働を実現する。

**データに基づくマネジメントの推進(IR)**  
大学評価に関する基礎データ、新中期計画のアウトプット評価、他校とのベンチマーク、学習に関する調査等の多様なデータを収集しており、今後はそのデータを充実し、経営・教学のマネジメントに活用するための環境を整備する。



# ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現

## 2014年度

- ステアリングコミッティ、4者ミーティング(理事長、学長、院長、常務理事)を設置し、迅速な意思決定を促進した。
- 総合的マネジメントの在り方について外部機関への調査・研究委託等(2014年度)

### 総合的マネジメントに関する 共同コンセプトワーク(野村証券)

教学・財政・人事・建設など諸計画の連動を強める「総合的マネジメント」のコンセプトや中期総合経営計画策定について、野村証券との共同コンセプトワークを行い、米国20大学の先進事例を分析・検討し、提案を作成してその成果を理事長・学長と共有した。

### 経営指標ダッシュボードの モデル開発(野村証券)

経営・教学のマネジメントに関する最重要指標を30項目ほど抽出し、現状や経年推移、競合校との比較をデータで把握できる「経営指標ダッシュボード」のモデルを作成した。

### 大学・教育を取り巻く 未来動向分析(博報堂)

### 大学のグローバル化に向けた 中長期的環境分析(野村総研)

## 2015年度

- 総合企画部設置等の組織改編WG(9月11日～11月16日までに6回)開催
- ▲総合企画部設置予定(2016年4月)
- 総合プロジェクトチーム設置(2015年9月～)
- 大学共同研究(学長指定研究)「総合的マネジメントに関する研究」開始



# 入試制度の検討

## ◆グローバル入学試験(2014年度より実施)

- I) 国際貢献活動を志す者のための入学試験
- II) 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験
- III) インターナショナル・バカロレア入学試験
- IV) グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語リスニング方式)
- V) グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

## ◆英語検定試験4技能型を活用する大学入試センター試験を利用する入学試験(2016年度入試より導入)

### <出願資格>

「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を測定する以下の英語検定試験のスコアを有すること。

高等学校の学びの成果による4技能型の英語検定試験のスコアを利用できる!!

英語検定試験(4技能型)を活用する入試を拡大します。

2016年度入試より、英語検定試験(4技能型)のスコアを利用して入学試験を実施する大学入試センター試験(1月試験)の活用を開始します。

試験名称	実施時期	試験科目	試験形式	試験時間	試験会場
英語検定試験(4技能型)	2016年1月4日(日)~1月13日(金)	読解・聴解・読書・聴解	筆記	120分	各大学入試センター試験実施会場

グローバル入学試験

2015年8月26日(金)~9月2日(日)

関西学院大学 高大接続センター  
Kwansei Gakuin University

GTEC CBT	実用英語技能検定	TOEFL iBT® テスト	TOEFL Junior Comprehensive	IELTS	TEAP	ケンブリッジ英検	TOEIC® & TOEIC®SW
1250以上	準1級以上	72以上	341以上	5.5以上	334以上	FCE以上	1095以上

## ◆京都大学×大阪大学×本学による高大接続フォーラム実施(2015年6月5日)



# 新基本構想の全体像



## 新基本構想

New Strategic Plan (2009-2018)

ミッションステートメント

スクールモットー  
"Mastery for Service"

めざす人間像  
"Mastery for Service"を  
体現する世界市民

めざす大学像  
〈垣根なき学びと探究の共同体〉の実現  
ラーニングコミュニティ

6つの  
ビジョン

「KG学士力」の  
高い質を保証する

「関学らしい研究」で  
世界拠点となる

地域・産業界・国際社会  
との連携を強化する

多文化が共生する  
国際性豊かなキャンパスを  
実現する

一貫教育と総合学園構想  
を推進する

進化を加速させる  
マネジメントを確立する

戦略

- 1 「KG学士力」の明示と全学共通プログラムの推進
- 2 教育力と「共育力」の強化
- 3 「オンリーワンを育てる」学生活動支援の強化
- 4 ICTキャンパスの構築

- 1 研究プログラムコーディネータ機能の強化
- 2 研究の受発信情報の完備化を実現
- 3 大学院教育の充実

- 1 地域・産業界・国際社会との連携拡充に向けた体制の構築

- 1 世界に開かれた関西学院大学の実現
- 2 世界との共生をめざす関西学院大学の実現

- 1 神戸三田キャンパスの活性化
- 2 一貫教育と総合学園の発展と充実
- 3 同窓会・後援会との連携強化

- 1 新たなガバナンスの構築
- 2 強固な財務基盤の確立
- 3 人事評価制度(教員・職員)の確立

## 新中期計画 New Medium-term Plan (2009-2013)

施策

教育

ICT

研究

社会連携

国際化

一貫教育

同窓会等

KSC

ガバナンス

人事評価

財務基盤

ミッション浸透

広報戦略

入試戦略



# 新基本構想 6つのビジョン

ビジョン

2009-2018

地域・産業界・  
国際社会との  
連携を強化する



「関学らしい研究」で  
世界的拠点となる



多文化が共生する  
国際性豊かな  
キャンパスを実現する



「KG学士力」の  
高い質を保証する



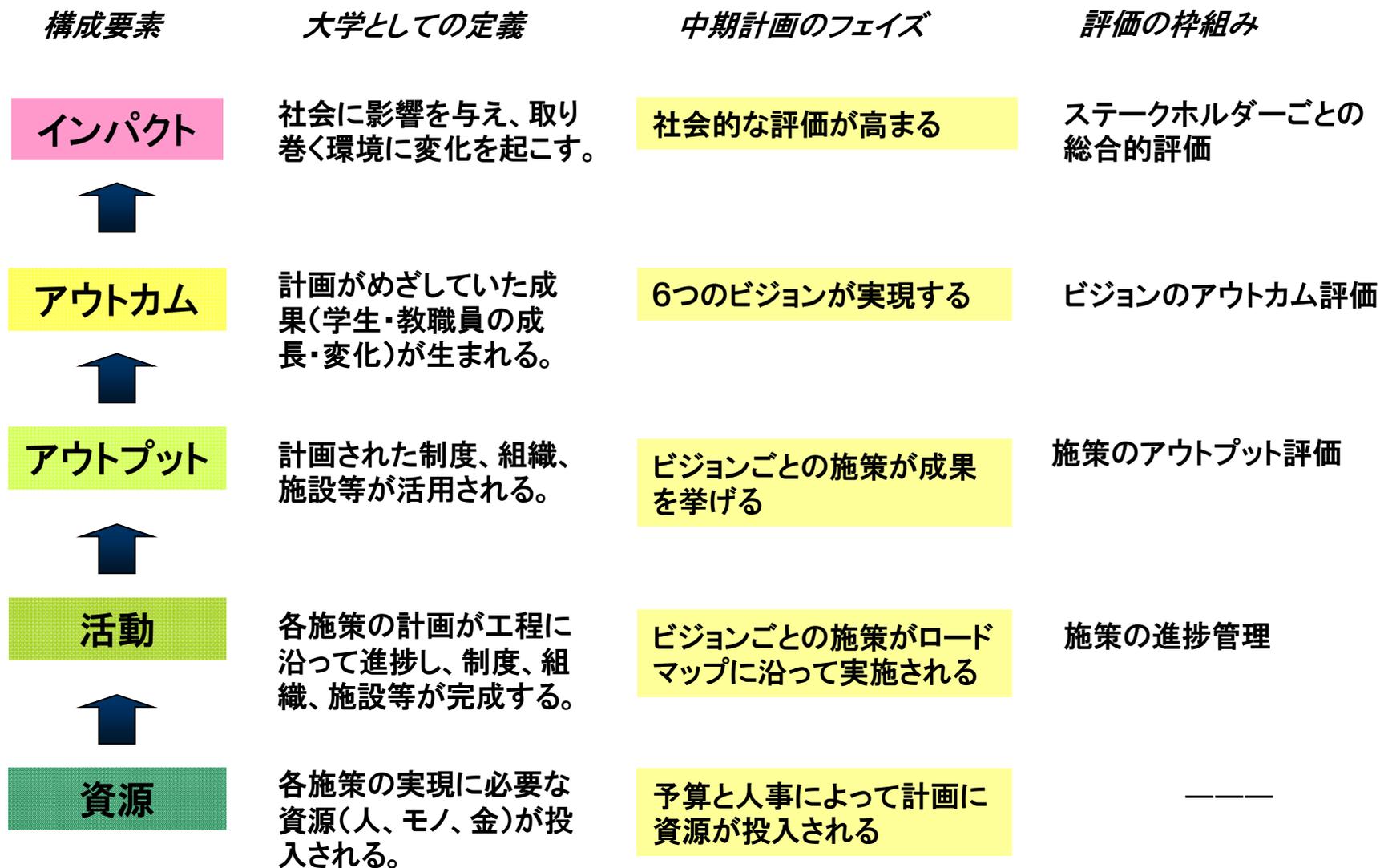
進化を加速させる  
マネジメントを  
確立する

一貫教育と  
総合学園構想を  
推進する





# 将来構想・中期計画のロジックモデル





# 国際化ビジョンのアウトカム評価 (2015年3月現在)

成果指標	定義/算式/測定方法	2009	2010	2011	2012	2013	2014
1 外国人留学生の数	正規、短期を合わせた当該年度の外国人留学生の総数 (交換留学生、短期留学生、学部正規留学生、大学院正規留学生)	534	631	812	867	839	920
2 派遣留学生の数	短期も含めて多様なプログラムで海外に留学した、当該年度の日本人学生の総数 (交換留学派遣、中期留学派遣、国連学生ボランティア派遣、青年海外協力隊、国際社会貢献活動、短期語学研修、短期国際学生セミナー)	422	411	820	923	1033	1070
3 派遣留学生の比率	本学に入学した学生が4年間に海外留学する可能性(確率)の近似値 <算式> 当該年度の派遣留学生総数(成果指標2) ÷ 当該年度の入学生総数(1年生:大学基礎データ各年5月1日現在に基づく)	7.6%	7.6%	15.0%	16.0%	19.0%	20.1%
4 学位の取得・授与数	DD(ダブルディグリー)制度および「英語のみで学位が取得できるコース」(IBA、理工学研究科、国際学部)で授与された学位の数	9	21	26	15	27	27
5 留学生や外国人教職員と接する機会	在学生へのアンケート調査(CCA調査)において「留学生や外国人教職員と接する機会がありますか」の問いに「日常的に接している」又は「たまに接している」と答えた学生の比率				44.1%	2年毎調査の為、2013年度は無。	45.3%

※各項目において、本学の定義と文部科学省の定義の違いから数値が異なる場合がある。



# 大学の世界展開力強化事業を推進 Cross-Cultural College

2011年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業(タイプB)」に採択。

世界的な名門校であるカナダの3大学(トロント大学、クイーンズ大学、マウント・アリソン大学)と関西学院大学が共同で構築したプログラム。両国の学生が寝食をともにしながら課題の発見・解決に向けて協働する科目群を通じて、グローバル社会を発展・成長させる「世界市民リーダー」をめざす。



## Cross-Cultural College (CCC)



カナダ3大学 & KGU 学生対象

### Certificate Program

- 使用言語は英語
- 多文化共生論、国際関係論等の中核科目
- 日加の学生混成の実践的科目

2014年度末CP修了者数  
累計 関学生53人、カナダ学生47人  
(内訳)

■2012年	関学生 2人、カナダ学生 19人
■2013年	関学生 8人、カナダ学生 17人
■2014年	関学生 43人、カナダ学生 11人

16単位 & TOEIC 820 で「修了証」

## 1. Joint Seminar in Japan

日加の学生が3週間、寝食を共にしながらのフィールドワーク。メインテーマは「多文化共生」。

## 2. Global Career Seminar in Japan

産業界からの課題を日加の学生が協働で分析し、解決策を立案、最終的に企業にプレゼン。

## 3. Global Internship in Japan/Canada & Japan

日加の学生が2人1組となり企業等でインターンシップを体験。a)日本のみb)カナダ・日本各1週間。



# 実践型“世界市民”育成プログラム

＜経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(GGI)全学推進型 採択＞

## 国連ユースボランティア

国連ユースボランティア派遣先国一覧  
(2004～2015年度)

■ UNV(国連ボランティア計画)との協定に基づき、開発途上国に学生派遣

→アジア初・世界3番目の取組み。2004年からの参加学生の累計は80人以上

■ 「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センターを設置

→世界初の試み。UNV-日本政府-関学による“KGUモデル”を先進的な取り組みとしてUNVが世界に発信。

■ 国内では国公立9大学が参加

→本学(基幹校)以外に、大阪、国際教養、上智、筑波、東洋、明治、明治学院、立教の8大学が連携校として参加。

ウクライナ	1
エチオピア	1
ガーナ	2
カンボジア	1
キルギスタン	14
サモア	7
ザンビア	1
スリランカ	6
タンザニア	1
ドイツ	2
ナミビア	1
ネパール	2
バングラデシュ	1
東ティモール	1
フィジー	3
フィリピン	11
ベトナム	2
ボスニア・ヘルツェゴビナ	1
マダガスカル	1
マラウイ	2
モザンビーク	2
モンゴル	17
ラオス	1
ルワンダ	2

合計 83人

## 国際社会貢献活動

■ 国際協力機関と積極的に連携

→国際協力機構(JICA)、赤十字国際委員会(ICRC)他と協定を締結し、学生派遣を推進。開発途上国での5カ月の生活・活動により、学生は大きく成長。

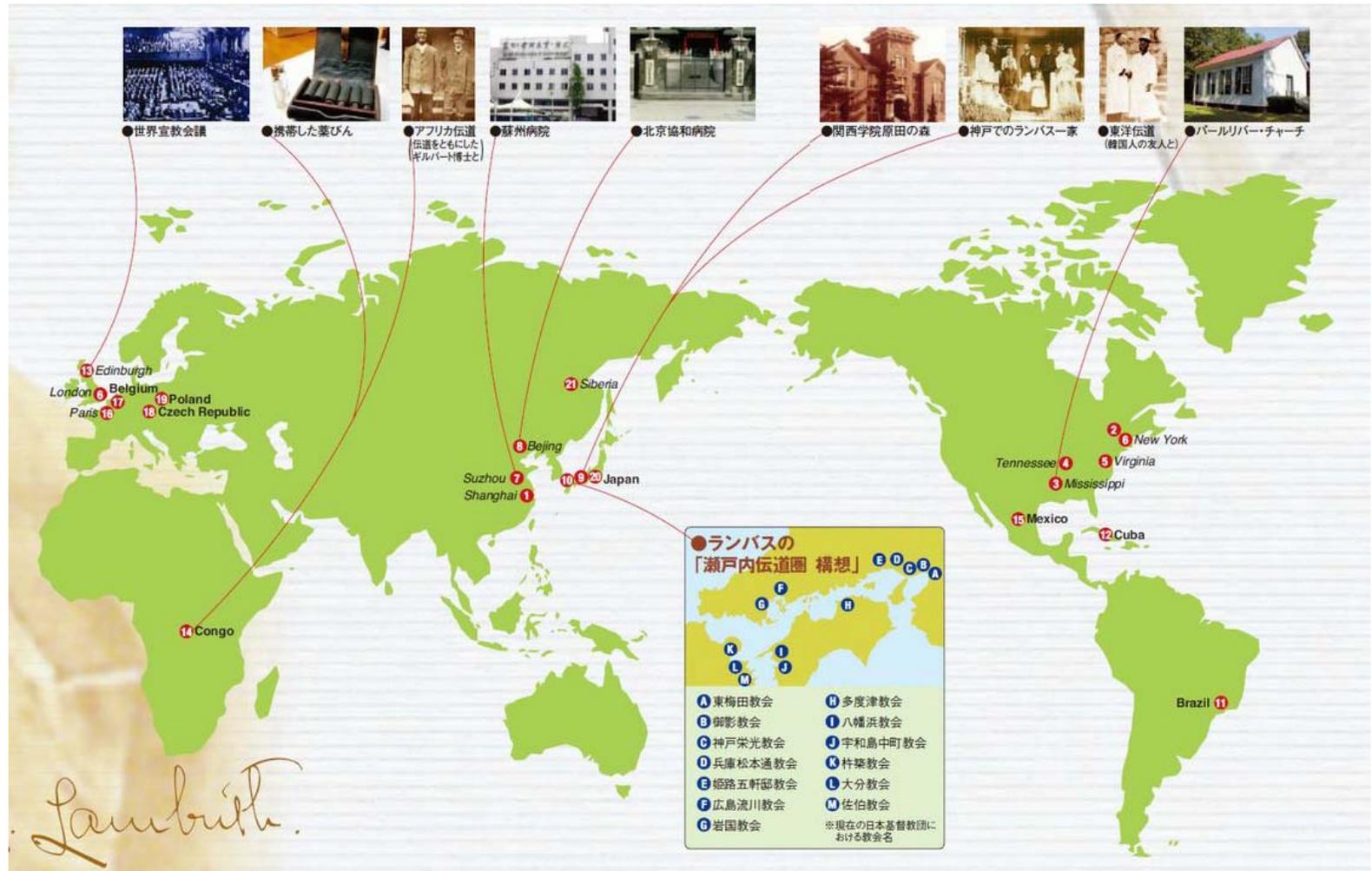


派遣先のUNDPオフィスで業務に取り組む派遣学生(ルワンダ)



# 創立者ウォルター・ラッセル・ランバス博士の足跡

関西学院は、アメリカ人宣教師(南メソヂスト監督協会)ウォルター・ラッセル・ランバスによって1889年に創立された。ランバスは離日後も、南米、キューバ、アフリカ、ヨーロッパ、シベリア、中国、朝鮮半島など世界を駆け巡り、医療と伝道活動を行った。





# 高校の指導教員が選ぶランキング

## 国際化教育に力を入れている大学

大学通信が毎年高校の進路指導教員へのアンケートを実施。

質問項目は「グローバル教育に力を入れている大学はどこか」(複数回答可)

順位	大学名	ポイント	2014年順位
1	国際教養大学	785	1
2	上智大学	399	3
3	国際基督教大学	359	2
4	立教大学	201	7
5	早稲田大学	201	5
6	立命館アジア太平洋大学	153	4
7	関西学院大学	138	15
8	東京大学	115	9
8	立命館大学	115	8
10	神田外語大学	80	12

※当該雑誌の同号に掲載されている「グローバル大学としての総合ランキング」では44位。

週刊ダイヤモンド2015/11/07